

「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勧作戦」①東京農業大

1部で戦う仲間を

オホーツク海に臨む網走市の天都山に広がる東京農業大生物産業学部のキャンパス。校舎周辺の残雪もわずかとなり、春を待ちかねた緑の若草がまぶしい4月18日、アメリカンフットボール部の新入生勧誘リーダー、金井康晴君（3年）が出迎えてくれた。昨年は2部で優勝し、1部最下位との入れ替え戦にも勝利して15年ぶりの1部復帰を決めた東京農業大。QBとして攻撃リーダーも務める金井君は「1部で戦うチームをつくるために、新入生を最低20人は集めたい」と力を込めた。

5人の先輩が抜けた新チームは選手が4年生2人、3年生2人、2年生7人の計11人。マネジャーなどのスタッフが6人。11人では、試合で全員が攻守兼任となるほか、練習も充分に行えない。戦力的には未知数の1年生部員も、バックアップ要員や練習のパートナーとして欠かせない存在になるだけに、チーム力を高めるために20人の新戦力が目標になった。

入学式から3日後の4月7日、大学が主催して部活動を紹介する場が設けられた。硬式野球部やカーリング部などとともにアメフト部も、動画の上映と寸劇で部の魅力をPRした。動画はユニホームと防具を付けた部員たちの「一番かっこいい姿」を集めて、まずはイメージ作戦。寸劇は「ドラえもん東農大編」。ジャイアンにいじめられるのび太が、ドラえもんに相談して東農大アメフト部に助けを求める。アメフト部で鍛えられたのび太がジャイアン懲らしめるという内容。ユーモアも交えた部員たちの熱演が新入生の注目を集め、会場に設けたアメフト部の勧誘ブースに呼び込んだ。「部の雰囲気良さそうだと、言ってくれた」と金井君らを喜ばせた。

次は練習見学会。11日からはグラウンドも使えるようになり、新入生向けにタッチフットを体験してもらった。毎回10人程度の見学者が訪れ、今度は熱い声かけ作戦が始まった。タッチフットの合間に「北海道の住み心地は?」「高校時代に何かやっていた?」と気さくな雰囲気を演出。練習後には食事に誘ってコミュニケーションを深めた。

「まず楽しい雰囲気づくり」と金井君。昼休みの食堂などでも、アメフト部のジャンパー姿で「1年生の顔を見つけたら声をかけた」という。会食の軍資金調達のため、深夜のホタテ水揚げバイトも2年生以上の「ノルマ」になった。

苦労が実り、4月24日現在で6人が入部し、新入生トレーニングも始まった。金井君の神奈川・舞岡高アメフト部の後輩も入部し、即戦力の期待も膨らむ。金井君が入学した2年前はコロナ禍のために勧誘活動が禁止され、今の3年生は結局2人だけ。「上級生が少ないと体作りや技術面で経験が足りなくなる」と、苦しい体験があるだけに力が入る。25日からは防具を付けた公開練習も始める。「いい感じです。目標の20人はいけそう」と手ごたえも出てきた。



寸劇を熱演してアメフトの魅力をPRした東京農業大アメフト部員たち